

栃 P 連 第 118 号
平成 30 年 2 月 9 日

小・中学校 学校長 様
同 P T A 会長 様
同 広報部長 様

栃木県 P T A 連合会
会長 渡邊 宏幸
(公印省略)

第 66 回 P T A 広報紙コンクールについて (募集案内)

時下、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より本会の諸活動に対して深いご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、標記の件について下記のとおり開催いたしますので、奮ってご応募くださいますようお願いいたします。

記

- 1 趣 旨 県内の小中学校で発行する P T A 広報紙を広く募集し、優秀作品を表彰、公開することにより、広報活動の向上を図り、P T A 活動の活性化に寄与することを目的とします。
- 2 主 催 栃木県 P T A 連合会
- 3 対 象 平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月までに発行された P T A 広報紙を対象とします。年間の発行回数は問いません。手書きやパソコンでの作成ものでも可です。
(学年日より、学級だよりは除きます。)
- 4 応募方法 応募票に必要事項を記入の上、各号 2 部を事務局に郵送
- 5 応募期限 平成 30 年 3 月 23 日 (金) 必着
- 6 応募先 栃木県 P T A 連合会 事務局
320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 栃木県教育会館内
- 7 審査基準 P T A 活動の掲載、企画力と創造性、編集とレイアウトの調和、記事内容と印刷技術、会員への伝達力
- 8 審査員 栃木県教育委員会総務課・生涯学習課、栃木県小中学校長会、下野新聞社、本会会長、本会情報委員長、本会情報委員等
- 9 褒 章 最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞
- 10 入賞の通知並びに表彰 入賞校には文書で通知
表彰式は平成 30 年 6 月 10 日 (日) 栃木県 P T A 連合会定期総会時
- 11 その他 応募作品は返却いたしません。

栃木県 P T A 連合会 T E L 028-622-2833 F A X 028-622-2834 info@tochigi-pta.gr.jp

(参考) 日本 P T A 全国協議会編「優秀広報紙集」より

P T A 広報紙 (新聞) とは…

P T A の目的は、児童・生徒の健全な成長の実現のために、学校や家庭、地域社会がそれぞれの役割を担いながら、協力することにあります。その際に保護者は、地域住民などによる学校の教育活動への協力や、保護者・教職員らによる学習・研修、教育環境の改善・整備などが求められています。

本来ならば、Parent (親)、Teacher (先生) の Association (会) という社会教育関係団体になります。そこで取り組まれる P T A 活動は、学校の教育活動への協力にとどまらず、そこに集う人々自身の「学び」もまた活動として存在するものです。

そのようなことから、

広報紙 (誌) は、児童・生徒の姿を活写するだけでなく、児童・生徒の健全な成長に資する P T A としての活動の様子を伝え、情報を共有したり、紙面を通して P T A 関係者への子育てに関する意識の啓発、自身のさらなる「学び」を誘発したりするものになります。

「学校だより」と役割分担を

子どもを中心において、学校を見ていくため、どうしても学校の教育活動についての話題が多く、いわゆる「学校新聞」になりがちな側面があります。学校の様子を広く会員に伝えるというのは必要な要素です。しかし、そればかりになってしまえば、やはりもの足りないものになってまいります。

また、「学校だより」など説明責任を果たす必要から、学校側からの情報提供も増えているはずですが。広報紙 (誌) の役割分担を明確にしていくことも、これからは必要になってくるのではないのでしょうか。インターネット等の普及により、ホームページなどで情報を共有する現状にあります。

P T A 広報紙 (誌) は P T A 活動を活性化させるための役割を担っていますから、紙面がどう活動を活性化させていったのかという視点に配慮することが大切です。

また、会員の参加した紙面作りも必要です。卒業にあたっての子どもたちの一言は紙面に多く登場しますが、視点を変えて、「我が子の成長を感じる時」などを会員から募って紙面に会員を登場させることも一つの方法です。原稿を集めるのが大変、というのなら、学級懇談会や授業参観の折りにでも、広報委員が手分けしてコメントや感想を集めて記事にまとめるという方法もあります。

特集記事ばかりでは、紙面が単調になってしまいますから、「校区の学び場」「遊びの達人」など、ちょっとしたコーナーを設けて、地域の人たちや会員からの投稿を呼びかけてもよいのです。

ただ、街のスポット紹介のようになってまいりますと、タウン誌と変わらないものになってまいりますので、P T A 広報紙 (誌) らしい切り口が必要なのは言うまでもありません。